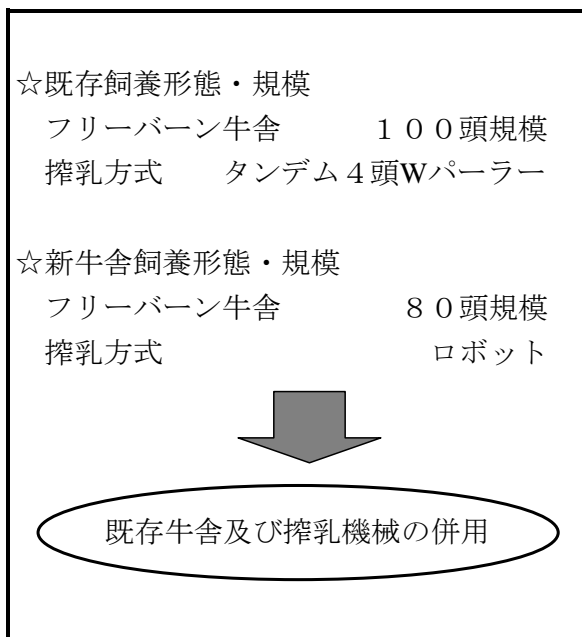


搾乳ロボット稼働中

備前県民局農林水産事業部農畜産物生産課畜産班

吉備中央町の酪農家雲岡晃紀さんの牛舎で搾乳ロボットが稼働を始めました。搾乳ロボットとは、乳牛の搾乳作業を全自動で機械が行うもので、朝晩の1日2回、手作業で乳頭の洗浄からミルカーの着脱、消毒までの搾乳作業を、ロボットが24時間体制で行います。これにより搾乳にかかる労働時間の短縮と労働負荷の軽減が図られます。搾乳ロボットの国内への導入は、北海道における導入を中心に10数年が経過しており、導入農場も北海道以外でも徐々に増えてきているようです。

雲岡牧場は、平成13年度に現在の地に経営を移転され、新天地では晃紀さん夫婦と息子さんの三人で、飼料自給率の向上を最重点課題とし、経産牛約90頭の経営を続けてこられました。



平成20年度から吉備高原地区においてスタートしている畜産担い手育成総合整備事業への参画により、飼料自給率の向上と経営規模拡大を目的とし、既存牛舎隣接地へ新たに搾乳ロボット導入によるフリーバーン牛舎を整備するとともに、草地造成改良等に平成22年度を最終年度として取り組まれております。ここで、雲岡さん一家に経営転換に至った経緯等お聞きしてみました。

○搾乳ロボット導入に至った経緯

経営移転時の規模拡大では、思っていたほど所得率の向上を図ることができなかった。

搾乳作業の省力化を図り、個体管理をより重視した経営コストの削減から所得率の向上を目指す。

○搾乳ロボット導入後

牛のロボット馴致期間より人間が馴れる方に期間を要した。ロボットは、『素晴らしい。』と感じている。（『新牛舎は、パソコン管理もあるので、息子さんがメインで担当。』）

○今後の取り組み・方向性

経営全体として、年末には経産牛120頭となるよう計画している。当面は、この頭数をベースに、所得率の向上に努めていきたい。



●最後に

昨年12月に新牛舎が完成し、ロボットの稼働から約半年が経過しようとしています。今年度事業の完了から、いよいよ新しい生産基盤が整い、経営が軌道に乗ってくれば、この事業の取り組みによる導入効果（省力化、所得拡大等）が現れ、雲岡牧場の新たな展開へのきっかけとなればと期待してやみません。